

週報

「招詞」

ほむべきかな 主。
日々 私たちの重荷を担われる方。
この神こそ 私たちの救い。



神は私たちの救いの神。
死を免れるのは 私の主 神による。

詩編 六十八篇十九〜二十節

那須キリスト教会

〒329-3222

栃木県那須郡那須町大字寺子丙 1-158

Tel 0287-72-5455



ホームページ : <https://nasu-kirisuto.kyoukai.jp>
YouTubeでの礼拝ライブ配信は、下記で検索してください
2026年4月12日 那須キリスト教会 主日礼拝

4月12日

主日礼拝

司会・奏楽：塚原 恵子姉

前 奏

招 詞 詩編 68篇 19～20節 (旧P1000)

頌 栄 2編1 (1、2節)

主の祈り

交 読 文 コリント人への手紙 I 第15章 (抜粋)
(「新聖歌」巻末交読文による)

祈 禱 塚原 恵子姉

讚 美 歌 147 (1、4節)

聖 書 ルカの福音書 24章13節～32節 (新P172)

説 教 「心は燃えていますか」 渋沢 宝 伝道師
(峰町キリスト教会)

讚 美 歌 2編131 (1、2節)

聖 餐 式 渋沢 宝 伝道師

使徒信条

献 金 547

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

【本日の聖書 (新改訳 2017)】

ルカの福音書 24章13節～32節 (新P172)

ヨハネの黙示録 3章20節 (新P496)

【報告】

- 先週は各地で小中高校の入学式が行われました。那須町では、桜が美しく咲く
中での入学式となったようです。
期待と喜びに輝く笑顔が、ずっと続きますように、友達と先生と一緒に楽しい
学校生活が送れますようにと祈ります。
- 本日のひつじかいは、「讚美と恵みのひととき」です。
- 本日の愛餐会は、ハヤシライス です。
- 礼拝は、YouTube でライブ配信をしております。どうぞご覧ください。

【公告】 4月26日(日) 2026年度第9回教会総会を行います
場所：那須キリスト教会 礼拝堂
時間：礼拝後 午後2時15分

【次週の予告】

4/19日(日) 主日礼拝

説教題：「心穏やかに生きるには」

聖書箇所：詩編26篇

説教者：安食 弘幸 牧師（峰町キリスト教会）

讚美歌：2編1(1,2). 2編131(1,2). オレンジファイル8「シャイン、
ジーザス、シャイン」. 539.

ようこそ那須キリスト教会へ！

〔はじめての方へ〕

- ・よくおいでくださいました。神様と共に喜んで歓迎いたします。
- ・聖書（新改訳2017）、讚美歌をお持ちでない方は、教会備え付けのものをお使
いください。
- ・礼拝順序など、となりの方に遠慮なくお聞きください。
- ・礼拝献金は、感謝の“しるし”として献げるものです。額は自由です。受付に
ある封筒をご利用ください。
- ・ご相談のある方は、担当の者が承ります。お声をかけてください。
- ・集会は下記の通りです。

- | | |
|-----------------|---------------|
| ★ 「礼拝」(日) | 午前10:30~12:00 |
| ★ 「聖書の夕べ」(火) | 現在お休み中です。 |
| ★ 「やさしい聖書の話」(水) | 現在お休み中です。 |

泉のほとりぞ

「山上の不思議な出来事」

マルコによる福音書九章二〜十三節

吉村和雄 キリスト品川教会名誉牧師

「聖書日課366編

主の恵み、日々新たに」より

すでに亡くなられた方ですが、逸見政孝という人の話をテレビで見ることがあります。ひょうきんなどところと真面目なところが入り交じったテレビタレントとして、抜群の人氣があつた人です。あんなお父さんだったらいいなと、多くの若い人たちが考えていた、と言います。しかしその人の実際の家庭でのようすを、実の息子が話していました。テレビに出ているときは全く違って、むつつりと黙つたままめつたに話をしないので、何を考えているのかわからず、近寄りがたかつた、と言います。この話を聞いて、わたしは彼が好きになりました。あの明るさ、ひょうきんきは努力して作り出していたのです。地道な努力が彼を支えていたのです。そしてそれは世の中も同じです。わたしたちは目立つ人、華やかな人に目を奪われます。しかし本当に世の中を支えているのは、陰にいる人たちです。陰にいて、目立たない仕事をしている人たちです。

神さまはどこにいるか。神さまなんかいないんじゃないか。そういう人は多いです。しかし素晴らしいながら、神さま、という言葉でわたしたちがイメージするものが、本当の神さまとは全く違っているのです。神さまはおられます。しかし目立つところにはおられません。目立たないところで、この世を支える。そこに神さまの場所があるのです。そこに目を注がない限り、神さまを見ることはできません。

弟子たちもそこを間違えたのです。主イエスが、自分は十字架にかかって死ぬ、という話をされたとき、みな驚いてそれを否定したのです。神の子が死ぬ、などということは決して受け入れられないことだったからです。ペトロはその言葉を聞いて「とんで

もないことです」と言つて主イエスをたしなめたため、厳しく叱責されたのでした。

しかしそれからしばらくして、主イエスは弟子たちと一緒に高い山に登られました。そのとき、主イエスの衣が真っ白になり、顔が光り輝き、旧約聖書に出てくるモーセとエリヤが主イエスと語り合ふ、という場面を弟子たちは目撃するのです。ペトロは思わず言いました。「主よ、わたしたちがここにいるのはすばらしいことです」と。そのとき天から声がしました。「これはわたしの愛する子である。これに聞け。」間もなく雲が彼らを覆い、気がつくともとのままの主イエスが立つておられたのです。

人々に捕らえられ、十字架にかけられて殺される主イエスと、山上の栄光に輝いておられる主イエスと、同じ主です。

「とんでもないこと」を経験される主は「すばらしい」と賞賛される主なのです。わたしたちの主のこのふたつのお姿の中に、わたしたちの想像を超える神さまの真実があります。わたしたちの救いの秘密も、またそこにあるのです。

